

## 根津鋼材

# 安全対策、省エネ推進

## コイル出側に開閉式ドア

## グループ全拠点で展開

有力コイルセンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区東日暮里、社長・根津訓光氏は、工場拠点の安全性向上と省エネを促進する。安全確保については、特に回転体や駆動部分への人の立ち入りを回避するための取り組みの一環で、スリッター

ラインのリコイラー側自動開閉式扉を設ける。ライン操作中は作業者が一切、設備の回転・駆動部分に近づけないようにする。これまでも安全防護柵で囲うなどの対策を講じたが、さらにレベルアップさせ、重大災害の防止に努める。

自動開閉ドアについては、すでに100%所（埼玉県八潮市）、子会社の村田鋼業（本郷科事業所（長野県茅野市）にも順次、設置が完了。高い安全性が確認できたことか、省エネ（節電）対策については、工場照明を全面的にLED（発光ダイオード）照明に切り替える。

（いずれも福島県須賀川市）および八潮事業所（埼玉県八潮市）、本郷科事業所（長野県茅野市）にも順次、設置していく。

省エネ（節電）対策については、工場照明を全面的にLED（発光ダイオード）照明に切り替える。

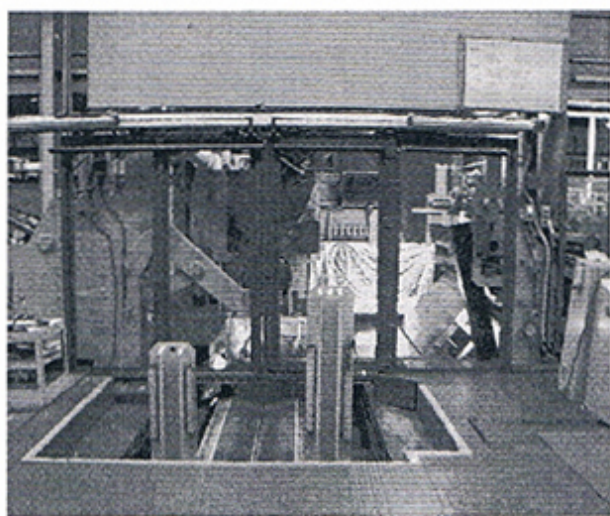
須賀川、長沼では7

月から施工に着手。実効性を見極めたうえで八潮、本郷科でも順次切り替えていく。いずれの工場も、現在は水銀灯を使用しているが、

照度は変わらずにワット数が700ワから約130ワに減るため節電効果が大きく、省エネに貢献する。

村田鋼業を含む根津鋼材グループでは①安全対策②人材の教育・育成③新たな人的資源の確保を積極的に推進し進めることで、企業価値と競争力を高めつつ、同業他社との差異化を図っていく。

なお、東日本震災で地盤液状化の被害を受けた村田鋼業も復旧が進み、近く全ての復旧工事が完了する。操業については5月から本格化している。



閉鎖状態のリコイラー安全扉